令和５年度茨城県普及活動検討会実施結果

農　業　技　術　課
農業総合センター専門技術指導員室

第１　目　的

本県における協同農業普及事業の実施状況、及び普及指導計画に設定した課題の解決に関する進捗状況並びに結果等について、事例報告や質疑応答をとおして外部委員から客観的な評価を得るとともに、次年度の普及活動に反映させる。

第２　評価委員

分　　野	委　員　名	所属・役職
先進的な農業者	大曽根　隆	茨城県農業経営士協会　会長
若手・女性農業者	根本　礼子	茨城県女性農業士会　会長
農業関係団体	海野　雅文	茨城県農業協同組合中央会 県域営農支援センター　センター長
消費者 学識経験者	根本　悦子	クッキングスクールネモト　主宰
民間企業	星野　康人	ホシノ・アグリ・コミュニケーション研究所　代表

第３　評価内容

１　主要な普及指導計画

・事例報告を行う各農林事務所経営・普及部門及び地域農業改良普及センターが策定する農業改良普及指導計画書のうち、主要な普及指導計画に定められた成果目標の達成状況について、農業改良普及指導計画書及び普及指導活動実績書を提示し、評価を受けた。

２　主要な普及指導計画の活動事例

・茨城県の普及活動の概要及び各農林事務所経営・普及部門、地域農業改良普及センターの普及指導体制と活動事例について、検討会での報告をもとに、評価を受けた。

（１）日時

令和５年 11 月９日（木）13：00～17：00

（２）開催場所

農業総合センター　１階ゼミ室（笠間市安居 3165-1）

（３）活動事例の内容

ア　「儲かるリンゴ経営体の育成と魅力ある産地づくり」
　県北農林事務所常陸大宮地域農業改良普及センター

イ　「「笠間の栗」付加価値販売体制の確立と経営向上」
　県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター

ウ　「地域特性を活かした多様な水田経営体の育成」
　県南農林事務所経営・普及部門

エ　「持続的発展が望める大規模露地野菜経営体の育成・強化」
　県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

（４）参集範囲

評価委員、農業政策課、農林事務所、農業総合センター、農業技術課　等

第４　その他

「茨城県普及活動検討会（外部評価）実施要領」及び「令和５年度茨城県普及活動検討会（外部評価）の運営について」に基づき実施した。

第５　主要な普及指導計画の評価結果一覧

課題番号	課　名	課　　題　　名	内部評価結果	外　部　評　価　結　果　※						
				A	B	C	D	①内部＜外部	②内部＝外部	③内部＞外部
大1	経営課	地域を活性化する新たな担い手の確保・育成	A	5	0	0	0		100%	0%
大2	地域普及課	オーガニックによる高付加価値農業・農地集積の推進	A	5	0	0	0		100%	0%
大3	地域普及課	儲かるリンゴ経営体の育成と魅力ある産地づくり	A	4	1	0	0		80%	20%
笠1	経営課	「笠間の小ギク」省力・安定生産技術の確立と経営向上	B	1	4	0	0	20%	80%	0%
笠2	経営課	就農支援協議会を核とした次世代を担う新規就農者等の確保・育成	B	1	4	0	0	20%	80%	0%
笠3	地域普及課	「笠間の栗」付加価値販売体制の確立と経営向上	B	3	2	0	0	60%	40%	0%
笠4	地域普及課	地域の特性を生かした儲かる普通作経営体の育成	B	2	3	0	0	40%	60%	0%
笠5	地域普及課	地域のモデルとなる儲かる園芸経営体の育成	B	1	4	0	0	20%	80%	0%
土1	経営課	儲かる新規就農者の育成及び中核的経営体の戦略的な経営発展	B	1	4	0	0	20%	80%	0%
土2	地域一課	収益性の高い持続可能なれんこん経営体の育成	B	3	2	0	0	60%	40%	0%
土3	地域二課	地域特性を活かした多様な水田経営体の育成	B	3	2	0	0	60%	40%	0%
結1	地域一課	持続的発展が望める大規模露地野菜経営体の育成・強化	B	2	3	0	0	40%	60%	0%
結2	経営課	大規模産地の未来を担うトップリーダーの育成と経営感覚に優れた青年農業者等の確保育成	A	4	1	0	0		80%	20%
結3	地域二課	スマート農業を活用した省力・低コスト生産の実践と転作品目の導入支援による効率的な水田農業経営体の育成	B	1	4	0	0	20%	80%	0%

※評価委員５名の評価個数を集計し、①内部評価結果よりも外部評価結果が良かった割合、②内部評価結果と外部評価結果が一致した割合、③内部評価結果よりも外部評価結果が悪かった割合を算出。

別紙

今後の普及活動に反映させたい事項

1　令和５年度普及活動検討会（外部評価）の開催結果から反映させたい事項

**　どのような支援をすれば農業者や地域が発展するのか、既成概念にとらわれることなく考えて支援すること。**
**　「有機」がキーワードの一つになっている。可能な範囲で関係機関等とのコーディネート機能を発揮して普及活動を行うこと。**

（評価委員コメント）
・「あたりまえの落とし穴」という言葉がある。一定の行動でシステムを構築しているが、時代は変化している。伝統は大切にしつつ新しい普及方法、新しい発想を取り入れて普及活動を発展させてほしい。
・有機＝健康の象徴として、消費者の意識は健康志向へと傾いていると思う。関係機関との横の繋がりを強化して、より良い農業の発展に繋げてほしい。
・これからの普及活動は「有機」というワードにどこかで触れるような活動をお願いしたい。

2　評価を受けた普及センター活動事例から反映させたい事項

（１）県北農林事務所常陸大宮地域農業改良普及センター

**　果樹経営において、特徴ある品種の栽培を増やし、ブランド戦略を行っているが、一過性の人気とならないようにしてほしい。どのように価格を維持し、どこまで流通させるのかを考えながら支援すること。**
**　農産物は、観光と密接な関係にある。産地として魅力度を上げるような方策、例えば他の果樹や農産物との組み合わせのアピールや、オーガニックという視点など、ＪＡや地元自治体等と連携して活動すること。**
**　６次化に関する指導について、若い世代の消費者を対象とした商品開発を行うこと。そうすることで、長期にわたり消費が継続し産地に良い影響がある。**

（評価委員コメント）
・引き続き産地の状況の分析をしながら、それに基づいた支援をしていくこと。
・首都圏から同じ距離で、群馬等の産地もある。どのように特長付けて売っていくのかを考えながら支援してほしい。
・冷凍技術を応用するなど、加工技術を工夫して、若い消費者をつなぎとめるよう商品開発をすべきである。
・「こうとく」のブランド化は成功しているが、一時的な人気で終わることの無いように、流通も含めて指導すべきである。
・大子は観光資源が豊富。八溝や袋田とどのように結び付けて売っていくのかを関係業者等を含めて検討すべきである。
・オーガニックという視点がリンゴにも求められているのではないか。付加価値向上に向けて検討してほしい。

（２）県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター

ブランド戦略が成功しているようだが、今後も産地が広がりを見せるように産地ビジョンを具体的に示し、コーディネート機能を発揮して活動してほしい。作業で労力がかかる部分の解消を目指し活動すること。独立就農後に安定して収益が上がるよう、モデルをつくり支援すること。

消費者が農産物を選ぶ際に必要な情報を発信し、単価向上や所得向上につなげてほしい。６次産業化には、商品開発が不可欠なので、マーケットをリサーチして新しいものを提案すること。

（評価委員コメント）

・若い担い手が、クリ生産者になりたいと思えるような仕組みが必要である。クリのみではなく、多品目と組合せた経営の提案などをしてほしい。
・クリで独立就農を目指せるよう、大規模経営体が必要なのではないか。
・クリの収穫には労力がかかる。作業機械の有効活用を考えて支援してほしい。
・クリ農家が加工に取り組み、利益を上げるような支援が必要。
・品種別出荷を進めているようだが、消費者が品種でクリを選ぶことが出来るような情報発信が必要なのではないか。
・産地のビジョンを具体的に示すことができないのか。カンショの成功例に倣ってクリで取り組んでほしい。
・観光と結び付けた発展を考えて活動をしてほしい。

（３） 県南農林事務所経営・普及部門

大規模経営体の育成に取り組んではいるが、経営体の支援ニーズを良く把握し、支援を行ってほしい。集積・集約を考えると、ドローン等のスマート機器の活用が望まれる。モデル設定や情報提供を十分に行い、支援すること。普通作農家が所得を上げられるよう、支援するとともに、食用米については消費者に情報提供を行って、コメの消費拡大に努めること。

（評価委員コメント）

・水田農業における所得向上の取り組みは、政策とどう向き合うかがカギである。生産者の反応を良く把握してほしい。コメ輸出の将来性は大きいと考えている。
・飼料米については、収量をいかに上げるかがカギである。品種選択を含め、収量向上にフォーカスして指導してほしい。
・消費者のコメ消費減には、炭水化物が悪者扱いされていることも一つの要因。消費者に正しい知識を広めて、コメ消費拡大、生産拡大につなげてほしい。
・直は栽培には、ドローン利用が十分メリットがあると思う。情報提供に努めてほしい。

（４）県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

現在の園芸農家は、気象災害と資材高騰というリスクに晒されている。高温化しても影響しにくい作物や品種の提案をするとともに、家畜糞堆肥などの代替資材の使用について情報提供し、所得の維持向上のための支援をすること。

ＧＡＰの取り組みは作業改善や経営改善につながるので、情報提供し、取組を支援すること。

園芸品目については、加工品も含め、マーケットリサーチを行い導入作目の支援をすること。

（評価委員コメント）

・カンショ導入にあたっては、今後の生産動向、消費動向を考えて支援してほしい。
・経営分析には記帳が不可欠。またＧＡＰの取組にも必要である。今後、どのように記帳してもらうかを考えて支援してほしい。
・ハクサイ産地でも６次産業化に取り組んでほしい。例えば、キムチは市場性高く、所得向上に繋がるのではないか。漬物など取り組みやすいものから広げてほしい。
・資材高騰、温暖化が所得に直結している。マリーゴールドや家畜糞堆肥の有効利用など、高騰する資材の代替提案をしながら所得向上に繋がる支援をしてほしい。